ふるさと応援団木島平会会報

平成26年5月15日発行　会報　第131号

樽滝の落水

今年も5月8日、樽川上流に「幻の滝・樽滝」が姿を現しました。好天に恵まれ平日にもかかわらず、放流開始前から滝が現れる瞬間を一目見ようと大勢の人で賑わいました。

高さ５０ｍの岩盤を流れ落ちる様は、水しぶきと新緑とのコントラストが美しく訪れた人の目を楽しませていました。

今年も、紅葉が美しい10月19日（日）に落水を行います。

龍興寺清水の桜で想う

さいたま市　小林荘志

春のお彼岸も過ぎると、桜花の開花ニュースもたけなわとなり、関東地方も「春だなー」と感じるようになる。

先４月３日に所用で上野恩賜公園へ行った。生憎の雨降りとなってしまい、せっかくの満開の桜花も雨にぬれ、残念でした。しかし、樹花下は花見の人で歩行も困難なほどの混雑振りで、また、老若男女のカップルやグループの花見客から聞える会話の半数以上は外国語であり、見事な日本の桜花の観光人気振りがわかる。

ところで、私には故郷内山の龍興寺の桜は、村内に多数の桜の名所がある中でも１番思い出のある、自慢したい場所でもある。ご存知の通り、龍興寺清水は平成の名水１００選に選ばれ、一躍近隣内外での有名地になりました。今も１年中、遠くは長野市など村内外から清水汲みの人達で混雑している。特に４月下旬の花の季節には、カメラ持参の花見を兼ねた清水汲みの客も多いとの事です。

想えば桜花と一緒に思い出すのは、春の先駆けとも云える「凍み渡り」です。休日の朝には裏山で野兎狩りの罠を仕掛けたり、樹上の山繭を採り、淡緑の綺麗な繭を帽子にぶら下げ、凍った積雪の上を、かずがらスキー（内山紙の原料の楮の皮を剥いだ後の棒を、長さ50cm位に切り、数本を足幅に並べて針金で繋ぎ、鼻先を火に炙って曲げたスキーで、紐で首に掛け携帯に向く）で野山の雪上を滑り回ったものである。その雪も消えた春休みには、今は厳しく禁じられているが、悪友達との田圃畦の枯れ草焼き、そして壊れた唐傘の骨と内山紙で作った凧揚げは、北風は冷たかったが楽しかった。その帰りに土手に芽吹いたフキノトウをポケット一杯に採り、母がそれを油で炒めて作ってくれた苦味の利いたフキ味噌の味は、未だ忘れられない１つである。これらは梅や桃の花、タンポポ、スミレなどの野草や庭先のモクレン、スイセン、チューリップなどの一斉開花と共に５月の新緑を前にした春先の一時は、今も強く心に残る大事にしている思い出です。

写真は満開の桜花とその下の清水汲み取り口と内山紙発祥地の石碑です。

木島平村と調布市と私たち（上）

さいたま市　清水正明

昭和17年(1942年)から昭和21年(1946年)までの4年間、当時の穂高村中村で少年時代を過ごした私の生活記憶は、その後の私の長い人生に埋もれてしまい、いつの間にか偶に思い出す程度になっていました。

今から15年以上も前のある秋の日、久しぶりに長女を連れて都下調布市にある電気通信大学の学校祭に出掛けました。ご存知のように木島平村は、昭和60年(1985年)にこの調布市と姉妹都市の縁を結び、それから文化、スポーツ、農産物などを通じて活発に交流を続けており、また市内のアンテナショップ「新鮮屋」も、大いに人気を呼んでいると聞いております。

初めて私が、当時は「東京都北多摩郡調布町」と呼ばれ、深大寺や祇園寺などの古刹や武者小路実篤が晩年を過ごしたという多摩地区南東部の町を訪れたのは、昭和31年（1956年）4月初旬でした。それは、国立電気通信大学が調布校舎を開校し、1年生として入学式に出席するためでした。木島平村を離れてから千葉県の太平洋側の農漁村で育った私にとって、大学校舎とは都会の街並みに聳える学問の殿堂のはずでしたが、武蔵野の雑木林の中の木造校舎にいささか気落ちしたものでした。調布町は、東京都の郊外都市としての発展などは思いもよらぬ、甲州街道の宿場町の一つであったのです。深夜には、フクロウが啼くほど、自然のままでした

さて、大学祭の帰り道に何となく調布市役所前の広場に足を運んだ時、調布市商工祭／物産展の会場で、「木島平の幟」が目に入るでありませんか。「何故、はるかに離れた調布の町に木島平が。」と訝りつつ、産物販売のテントに近づいて見ると、懐かしい「おやき」や「野沢菜の漬物」が並んでいました。さらに、「葡萄酒」まで店頭を飾っていました。この時、50数年前の村の記憶が鮮やかに蘇り、店頭に立つ村からの人達との会話と共に、「おやき」や「自家製味噌」などを無造作に買い込みました。一方、「フランス政府認定のワイン・ソムリエ」の公式ライセンスを持つ娘は、「木島平産の山葡萄ワイン」について、担当者と専門的な会話を始めていました。これが、現在は米国ミシガン州に住み、ワインや日本酒のコンサルタントとして活躍している由里子クーパーが、木島平村との関わりを持つことになった出会いでした。

（次号に続きます。）

会報原稿募集中！　郵送・ＦＡＸ・メールいずれかの方法でお願いします。
【送付先】〒３８９の２３９２　木島平村役場内　ふるさと応援団事務局
fax ０２６９の８２の４１２１　✉kicho@kijimadaira.jp　まで